

授業科目	* 救急・クリティカルケア看護学				単位	1		
履 修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU31323J		
開講年次	3年	開講時期	前期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP3-1			
担当教員	財津 倫子、高橋 甲枝							
授業概要	<p>実務家教員として冠状動脈疾患ケアユニット等の経験を生かし、以下の講義を行う。</p> <p>本科目は、生命危機の状態にある人間の反応、心身の回復過程、医学的介入や治療処置の過程、生命危機の状態にある患者の生命を守り生活を支えるための援助方法について学習する。具体的には、生命危機の状態にある患者及び家族について、①クリティカルケア看護の概念、②主要病態とアセスメント・ケア、③看護技術、④実践を支える枠組み(倫理性とチーム医療)等を解説していく。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 救急看護・クリティカルケア看護が提供される場・対象・専門性と役割について、その特性・特徴を説明できる。(DP1-2) 救急看護・クリティカルケア看護で求められる高い倫理性について、脳死と臓器移植・リビングウィルとDNAR、患者の権利とアドボカシー、身体拘束、インフォームドコンセント、の観点における理論的背景を踏まえた上で、自らの意見を整理し、記述することができる。(DP2-1.DP3-1) 救急看護・クリティカルケア看護におけるチーム医療の意義について説明できる。(DP1-2) 救急看護・クリティカルケア看護領域の主要病態によって生命危機の状態にある患者のフィジカルアセスメント、処置・ケアの方法について説明できる。(DP1-2) 生命危機にある患者と家族及び重要他者の心理社会的反応の特徴、ならびにその援助方法について説明できる。(DP1-2) クリティカルケア看護に特徴的な生体侵襲と生体反応・せん妄・人工呼吸器関連肺炎・肺保護戦略について説明できる。(DP1-2) 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	80	0	20	0	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)	40						40	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	40		10				50	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			10				10	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)								
態度 (DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				

<p>救急看護・クリティカルケア看護が提供される場・対象・専門性と役割について、救急看護・クリティカルケア看護で求められる高い倫理性について、チーム医療の意義について、具体的に説明できている。</p> <p>脳死と臓器移植・リビングウィルとDNAR、患者の権利とアドボカシー、身体拘束、インフォームドコンセントの観点における理論的背景を踏まえた上で、自らの考えをまとめることができる。救急看護・クリティカルケア看護領域の主要病態によって生命危機の状態にある患者のフィジカルアセスメント、処置・ケアの方法について、具体的に説明できる</p>	<p>救急看護・クリティカルケア看護が提供される場・対象・専門性と役割について、その特性・特徴を説明できる。</p> <p>救急看護・クリティカルケア看護で求められる高い倫理性について、脳死と臓器移植・リビングウィルとDNAR、患者の権利とアドボカシー、身体拘束、インフォームドコンセントの観点における理論的背景を踏まえた上で、自らの意見を整理し、記述することができる。</p> <p>救急看護・クリティカルケア看護におけるチーム医療の意義について説明できる。</p> <p>救急看護・クリティカルケア看護領域の主要病態によって生命危機の状態にある患者のフィ</p>
---	---

授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>クリティカルケア看護の特性(財津)</p> <p>1. クリティカルケア看護師が求められる能力や専門性について、専門職としての役割と責務の観点から解説する。</p> <p>2. クリティカルケア看護が提供される場について解説する。</p>	講義	復習: 該当部分の復習	60
2	<p>救急看護・クリティカルケア看護を必要とする対象の理解(財津)</p> <p>1. クリティカルケアを必要とする患者の特徴について解説する。</p> <p>2. 危機的状況にある家族の特徴について解説する。</p> <p>3. 家族のニーズとその援助について解説する。</p>	講義	復習: 該当部分の復習	60
3	<p>生体侵襲・生体反応その1(財津)</p> <p>1. 生体侵襲反応について、神経系・内分泌系の調節機能と各基幹系の応答、身体侵襲に伴う臓器障害のメカニズム、サイトカインによる炎症-免疫系の応答を中心に解説する。</p>	講義	復習: 該当部分の復習	60
4	<p>生体侵襲・生体反応その2(財津)</p> <p>1. 侵襲下における代謝・栄養状態とその管理について解説する。</p>	講義	復習: 該当部分の復習	60
5	<p>救急領域における主要病態に対する救急処置とケア(財津)</p> <p>1. 外傷患者への対応について、解説する。</p>	講義	復習: 該当部分の復習	60
6	<p>救急領域における主要病態に対する救急処置とケア(財津)</p> <p>1. 熱傷患者の対応について解説する。</p>	講義	復習: 該当部分の復習	60
7	<p>ICUにおける看護の実際—その1(外部講師:認定看護師)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定看護師について ・ICUの概要 ・集中治療を受ける患者の特徴 	講義	復習: 該当部分の復習	60

8	ICUにおける看護の実際—その2(外部講師:認定看護師) ・ICU看護師の役割 ・ICUにおける看護の実際	講義	復習:該当部分の復習	60
9	初期・第二次救急医療における対応(財津) 1. 看護体制(施設と設備)及び看護の展開(患者の受け入れシステム・トリアージなど)について解説する。	講義	復習:該当部分の復習	60
10	第三次救急医療における対応(財津) 1. 看護体制(施設と設備)及び看護の展開(患者の受け入れシステム・トリアージなど)について解説する。 院内急変時における対応 1. 院内急変時における対応について解説する。	講義	復習:該当部分の復習	60
11	呼吸・循環障害系アセスメントとケア(財津) 1.呼吸障害・循環器系の観察とアセスメント 2.人工呼吸器装着中の患者の管理・ケアについて解説する。	講義	復習:該当部分の復習	60
12	クリティカルケア看護領域におけるアセスメント・処置・ケア(財津) 1. IABP 装着中の患者の管理・ケアについて解説する。 2. PCPS 施行中の患者の管理・ケアについて解説する。	講義	復習:該当部分の復習	60
13	災害看護(高橋) 1. 災害の定義と分類および健康におよぼす影響について解説する 2. 災害看護について法的・倫理的な視点で解説する 3. 災害看護の特徴と看護活動について解説する	講義	復習:該当部分の復習	60
14	救急・クリティカルケア看護の倫理(高橋) 1. 救急・クリティカルケア看護において求められる倫理性について、脳死と臓器移植、リビングウィルとDNAR、患者の権利と養護、インフォームドコンセントを踏まえて解説を行う 2. 救急・クリティカルケア看護において求められる倫理性について、事例をもとにグループワークで学びを深める	講義・グループワーク	復習:該当部分の復習	60
15	救急・クリティカルケア看護の倫理(高橋) 1. 救急・クリティカルケア看護において求められる倫理性について、事例をもとにグループワークで学びを深める	講義・グループワーク	復習:該当部分の復習	60
16				
17				
18				
19				

20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	看護形態機能学、疾病学総論・各論との関連性が高いため、これらの科目について、事前学習を必ず行ってください。また、救急・クリティカルケア看護学は、専門性の高い領域です。従って、いままでに蓄積した全ての専門基礎科目・看護専門科目の知識を必要とします。特に、成人看護学(急性期・回復期)における看護については十分に復習して講義に臨んでください。			
テキスト	教科書 系統看護学講座別巻 救急看護学(医学書院) 系統看護学講座別巻クリティカルケア看護学(医学書院)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考図書 救急・重症患者と家族のための心のケア(メディカ出版) このほかの参考図書については、開講時および講義中に提示します。 教材等 必要に応じて、パワーポイント資料を配布します。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	看護形態機能学、疾病学総論・各論、成人急性期看護方法論、成人看護学概論などで使用したテキストや配布資料など、既習の科目について再度学習をしておいてください。 外部講師の予定により、日程変更の可能性があります。			
達成度評価に関するコメント	試験及びレポートの内容については、授業の中で指示する。			